

令和7年度彩の国あんしんセーフティネット事業

就労支援事業所連絡会

実施日	令和7年10月27日(月)10:00~12:00
参加者	31名 (実施施設担当者・市町村社協担当者・ 自立相談支援機関の担当者)
実践報告	特別養護老人ホームあかつき ケアセンター岩槻名栗園 ジョブアシストセンター



グループワークの様子

内容

就労支援の実践報告として、実際に施設に就職が決まったケースを2事例報告し、その後各市町村での取組状況など意見交換を行った。

- ① 就労体験→パート就労→正社員にステップアップした事例
(実際に体験を行ったご本人に感想等お話しいただいた)
 - ・自信をなくしていて、すぐに一般就労をするのは不安があったが、体験で少しずつ慣れることができてよかった。
 - ・慎重に段階を追ってくれたことが、今も仕事を続けられている要因。
 - ・福祉の仕事は、自分のやったことに対して「ありがとう」と声をかけてもらえる。自分の顔と名前を覚えてもらえたこともうれしかった。
 - “役に立っている”と思えた。
 - ・今までは、ひきこもって家で過ごすことが多かったが、体験を始めてから、休みの日に家にいるのはもったいない、と思うようになり運動を始めた。
 - 外見も内面も変わることができた。
- ② 就労体験→認定就労訓練→障害者雇用ステップアップした事例
 - ・本人の希望や能力等考慮し複数の部署での体験を行った。その経験が本人の自信にもつながっていった。
 - ・前職でうまくいかなかったトラウマもあり、自己肯定感が低かった。担当者からの「できている」という評価を、都度本人に言葉にして伝えていた。
 - ・途中で、受診に同行して主治医と話せたこともきっかけとなり、手帳取得につながった。
 - ・以前就労体験から直接雇用となった方が、今回のケースでは業務を教える側になった。

参加者の声

- ・全体の総数は少ないが、就労につながる事案として重要な役割だと感じた。
- ・就労体験をされた方の声を聞くことができ貴重なお話を聞くことができた。
- ・スモールステップの部分を詳しくお話いただき、参考になった。
- ・それぞれの機関の立場からの意見が聞けて良かった。
- ・インタビュー、アセスメント方法で参考になる意見を聞いた。